2022 年度事業計画

【キーパーソン 21 の活動目的】

キーパーソン 21 は、主に小中学生から大学生世代に対して、様々な社会人との交流の場を作り、自分の将来について考えるきっかけを持つことで、一人ひとりが視野を広げ、社会へ旅立つことの自覚と自立心を醸成していけるよう寄与することを団体の目的としています。また、すべての世代が、わくわくしながら主体的に社会参加することを支援し、一人ひとりを最大限に活かす社会を創造することを目指します。

【2022 年度目標】

1.一人ひとりが自分を活かしていきいきと生きることのできる HOW（プログラム）をもつ NPO として、豊かで新しい社会の人間力の土台をつくる役割を担っていることを明確にする。

2.その HOW(プログラム)は、親、先生、企業人、行政など地域の大人との対話型のものであり、地域を有機的につなげることができるものである。この繋がりをもって共創造する新しい地域コミュニティのあり方を示していく。

3.上記 1 と 2 により、一人ひとりの自分らしい幸せは、結果として、まちや国全体に豊かさと幸せをもたらすものである。人の生きる本質を提言提供し、社会課題の根本解決に向かう人づくりのダイナミックチェンジを行うべく、全国において、学校、PTA、行政（自治体）、企業、諸団体と連携し、イノベーティブでサスティナブルな社会を共創造する。

●2022 年度の重点施策

1. STEP1～3 にとどまらず、4 ～ 5 の事例づくり

大人たちの意識改革が行われ、地域でわくわくエンジンをベースに繋がる地域コミュニティが創出されていくことわくわくからやってみたい！が生まれる。子どものやってみたいを無視することなく、応援する事例により、「自分のわくわくに気づき変わること」をアピールする。

■期待する効果：STEP4～ 5 により、子どもも大人も実践する機会や経験を得、体験に基づいた理解をすることで、自分らしく生きようとする子どもたちが増える。

■取り組み対象：なかわく、寺子屋、宮内中、久本小、宇和島市、チーム大阪兵庫親子わくわくキャンプ、ＫＭＰ、新潟日報、オンラインですきなものビンゴ

2. ホームページリニューアル

全国各地の活動者たちをアピールすることで、出前授業のイメージを払拭し、地域コミュニティが創出されていることを表現する。 公式ホームページにおいて、様々な広報活動を整理し効果的な発信を目指す。

■期待する効果：現実の活動内容の目標と、ホームページで表現されていることのギャップがなくなる。出前でプログラムを求める人ではなく、真に人づくり、自分のまちにおいてコミットしたいと考える人が、キーパーソン 21 が生み出す地域コミュニティに参画することのできるサイトへと変貌する。

3. 子どもわくナビ育成プロジェクトのスタート

江津、草津で育った子どもわくナビを事例のスタートとし、子どもが友人や大人から可能性を引き出す力を持つことによって、人づくりの社会循環システムの土台をつくる。

■期待する効果：社会づくりの基礎となる人間力の土台をつくることで、5 年後 10 年後に豊かな社会づく

りに貢献する子どもたちが増える。

■取り組み：くさつ未来プロジェクトとの連携、豊島区立明豊中学校との連携

●各事業のテーマ

① 親・家庭領域：オンラインプログラムにおいて、子どもの「やってみたい！」をやることができるように保護者として応援し、発表・報告することで成長と自立を促す仕組みをつくる

② 教員・学校領域：社会課題や学校教育界のニーズに対応したプログラムの発展的事例づくり

③ まちづくり領域：各地域の会員や地域チーム、パートナーが自立的に活動できるよう推進する

④ 居場所づくり領域：継続的に関わることのできる子どもを「うちの子」として、一人ひとりの変化変容と成長を中長期的にサポートし続ける

⑤ プログラム開発：各事業領域のニーズに合わせたプログラムの開発を行う

⑥ 戦略：中期事業計画に則った効果的な戦略を立てる

⑦ 広報：社会の様々な立場の人をつなぎ、効果的に事業を推進できるよう広報戦略を立て執行する

【事業展開図】

事業計画　目次

【事業部門】

（１）特定非営利活動に係る事業

① キャリアプログラムの開発、展開事業　1）プログラム開発事業＜事業展開図⑤プログラム開発＞

2）プログラム展開事業＜事業展開図①親・家庭＞

＜事業展開図②教員・学校＞

② キャリアプログラムの普及啓発事業　1）わくわくナビゲーター養成講座および講師育成＜事業展開図⑤プログラム開発＞

2）全国への普及＜事業展開図③まちづくり＞

3）広報、コミュニケーション活動＜事業展開図⑥広報＞

③ 社会参加支援事業　1）川崎市学習支援・居場所づくり事業（通称：なかわく/こすわく）＜事業展開図④居場所つくり・委託事業＞

2）川崎市寺子屋事業＜事業展開図④居場所つくり・委託事業＞

④ 人材育成を目的とした、企業、団体等への助言、研修事業　＜事業展開図①②③④⑤⑥⑦＞

⑤ 教育に係わる情報収集、調査研究及び発信事業　＜事業展開図⑥広報・⑦戦略＞

⑥ その他目的達成のために必要な事業　会員力最大化＜事業展開図⑪エンゲージメント＞

（２）その他の事業

① 寄贈品、グッズなどの物品販売

② 著作、出版物の制作・販売

③ 会員のサークル活動支援事業

【管理部門】

1）財政基盤を構築する　＜事業展開図⑦戦略⑩戦略＞

2）組織改革・基盤強化　＜事業展開図⑧総務⑨経理⑩人事　組織改革・基盤強化＞

3）戦略を立案する　＜事業展開図⑪戦略＞

【事業部門】

（１） 特定非営利活動に係る事業

①キャリアプログラムの開発、展開事業

1） プログラム開発展開事業 ＜事業展開図 ⑤プログラム開発＞

■22 年度のテーマ
各事業領域のニーズに合わせたプログラムの開発を行う

■活動項目
・「わくわく先生プロジェクト」を汎用性のあるものとする
・オンラインわくナビ育成にあたり、養成講座未受講の方への補助講座を検討する
・各地でのステップ 4～5 の事例開発する

2）親/家庭向けプログラム実施 ＜事業展開図① 親・家庭＞

■22 年度のテーマ
オンラインプログラムにおいて、子どもの「やってみたい！」をやることができるように応援し、
発表・報告することで成長と自立を促す仕組みをつくる

■22 年度の目標
①家族の対話からはじまる家族の成長へ～オンラインプログラムの進化と事業化
②保護者主体の持続的なモデル事例づくり～有明・明豊中の実践と報告へ
③地元川崎市寺子屋事業での応援モデルづくり

■活動項目
①-１． 親子むけオンラインプログラムの実施（春・夏）と通年事業化
・応援企業もしくは助成金 ・ＳＮＳ等も活用した広報 PR による認知拡大
①-２． 親子向けオンラインプログラム 参加親子へのフォローによる「応援」の仕掛けづくり
・同窓会やオンライン WS ・SNS 活用
②． ＜有明プロジェクト／地域学校協働本部＞ ＜明豊中／PTA・学校運営協議会＞
地域の保護者主体の自立モデルづくり。
発展型コミュニティスクール事例としてのアピール：教育委員会等行政への報告
経済産業省キャリア教育連携表彰へのエントリー、未来の先生フォーラムでの紹介、
③． 寺子屋事業の体験学習実施 「やってみたいをやってみる！」

3）学校におけるプログラム実施 ＜事業展開図　②教員・学校＞

■22 年度のテーマ
わくわくエンジン発見！プラスアルファの実践事例づくり
■22 年度の目標
①やりたいを応援！STEP1-5 の学校での実践事例づくり
②先生がキーパーソン！先生のわくわくエンジン理解促進
③わくわくエンジンから始まる「探究」学習事例づくり
④学校の個性にあわせた進路サポートプログラム対応…「定時制」「酪農」
⑤企業の子ども応援プロジェクト：意味付けの強化「コミュニティスクール」
⑥わくわくの見える化＝効果測定

■活動項目
①学校で STEP1－5 まで展開する実践事例をつくる
・川崎市立宮内中学校✕富士通
・子どもわくナビモデル：豊島区立明豊中 Jr.サポーター育成（7－11 月）
・川崎市立久本小学校✕エヌアセット✕高津区のおとなたち
②教員研修の実践、マニュアル化⇒地域チームへの展開
わくわく先生プロジェクト（川崎市立宮内中）
③わくわくエンジン⇒探究授業の接続事例づくり（関西大倉中）
④高津高校定時制　わくわくプロジェクト
岡山県高松農業高等学校 「酪農の夢」プロジェクト
⑤企業の子ども応援プロジェクト　CASIO－渋谷本町学園＆広尾中、wowow-赤坂中、エヌアセット-川崎市立久本小
・渋谷区立：「シブヤ科」と連携した実践事例づくり
⑥リバネスとの連携によるわくわくの見える化＝効果測定（川崎市立宮内中）
●広報（広報チームと連携）
・各プロジェクトの記事化
・プレスリリース
●キーパーソン 21 スペシャルサポーターとの連携

②キャリアプログラムの普及啓発事業

1）わくわくナビゲーター養成講座および講師育成 ＜事業展開図　⑤プログラム開発＞

■22 年度のテーマ
プログラムを通して、人間力の土台をつくる
■22 年度の目標
子どもわくナビを育成する
■活動項目

●わくわくナビゲーター講師の育成
「すきなものビンゴ＆お仕事マップ」のわくわくナビゲーター養成講座の講師養成し認定する（2～5 名程度）
●わくわくナビゲーター2 級・1 級養成
●わくわくナビゲーター活動の仕組みの整備
・1 級養成の魅力の整理
・更新の仕組みの整備と運用の見直し
・改訂前の講座を受けたわくわくナビゲーターに改訂やプログラムの変更を伝える段取りの実行
・わくわくナビゲーターの学びと成長の場つくり（わくわくナビゲーターラボ＊仮称）
●わくわくナビゲーター養成講座の開催
・川崎本部開催（８回）
・地域開催は普及の状況に合わせて開催
●「オンラインですきなものビンゴ」わくナビ育成コースを開催
●パートナー向けわくナビ養成研修（パートナーからの依頼に応じ開催）
●わくナビ講師を養成（1 級認定者を対象に各地域 2 名～3 名）
●認定委員会（講師認定含む）（２回開催）

２）地域チーム/パートナーによるプログラム実施 ＜事業展開図　③まちづくり＞

■22 年度のテーマ
各地域の会員や地域チーム、パートナーが自立的に活動できるよう推進する
■22 年度の目標
・事務局に集まる各地からの活動にまつわる知見を地域チームやパートナーと共有し持続可能な活動を促進させる。（情報のブラッシュアップ⇔共有する循環の場をつくる）
・地域で活動したい人がスムーズに開始できるための情報の整理をする
・地域教育システム導入事例を増やす
・わくわくエンジン®がまちづくりにつながる事例を発信する（広報と連動）

■活動項目
【STEP1～5 地域みんなで子どもを育む持続可能なまちづくりプロジェクトとして】
・自分の地域でやりたいとおもう人ができるガイドラインづくりをする（STEP1～３）
・規模や資金等を加味したパートナーシップ提携だけでない繋がりの仕組みの整理、提供をする（STEP2）
・子どもたちがわくわくエンジン®発見したあと、大人が応援する、伴走するということの事例づくりと発信（STEP４）先生や他団体との接続や、コラボレーションの可能性も模索する
〈地域チーム向け〉
●2～3 か月に 1 回、各地域チームでの事例を題材に、全地域チーム希望者が参加できる公開戦略ミーティングを実施する
●事務局との協働プロジェクトの提案、実施
●おもしろい仕事人がやってくる（講演プログラム）等、「すきなものビンゴ＆お仕事マップ」と合わせて実施し効果のあるプログラムについてのノウハウの提供

〈パートナー向け〉
●3 か月に 1 回、ヒアリングとフォローアップについての積極的な提案（オンライン＆リアル）
●パートナー事業形態に合わせたプログラム実施提案

3）広報、コミュニケーション活動 ＜事業展開図　⑥広報＞

■22 年度のテーマ
社会の様々な立場の人をつなぎ、効果的に事業を推進できるよう広報戦略を立て執行する。
キーパーソン 21_統合ロジックモデルをベースに、地域＆組織＆個が結びつき社会に一歩踏み出すつながりをつくりだし（世の中の様々なプレイヤーをつなぐハブとなる）成長させていく。
それを実施するための土壌となるリレーション/コラボレーションを拡大しつつ、全員広報として関わる人の情報発信能力を高めていく。

■22 年度の目標
全員広報を掲げつつ、関わるリソースが不足・変動する中、網羅性を持って明確化した ToDo を整理し、優先順位の重み付けを明確にし、実施していく。

■活動項目
A.オウンドメディア的発信の強化
・KP21 ホームページの見直し
・ソーシャルメディア（フロー型）の活用：FB・Twitter・Instagram 等
・ソーシャルメディア（ストック型）の活用：YouTube（わくわくチャンネル）・note（わくわくエンジン図鑑）・coki・voicy
・総合研究所の検討（Fact&Opinion の提示）
B.メディアリレーション（パブリシティ）の実施
・プレスリリースの継続と転載を狙った発信
・メディアとの良好な関係の構築/関係性発展
C.ステークホルダーとの関係性構築/ネットワーキングの実施
・事業領域の文脈に則った組織への意図を持ったアプローチ
・お声かけいただく人/組織との情報の HUB となり関係性構築
D.全員広報を念頭においた広報に関するリテラシーの向上/再現性の確保
・発信したい人が適切/効果的に情報を出すことができるマインド/能力を身につける（@オープン広報ミーティング等）
・知財/アプローチ方法/ノウハウの整理・共有
（TIPS,ノウハウなど暗黙知の形式知化　各種ガイドラインの策定など）

③社会参加支援事業

1） 川崎市学習支援・居場所づくり事業（通称：なかわく/こすわく） ＜事業展開図 ④居場所づくり＞

■22 年度のテーマ

継続的に関わることのできる子どもを「うちの子」として、一人ひとりの変化変容と成長を中長期的にサポートし続ける

■22 年度の目標

コロナ禍でおやつの時間がなくなったため、子ども同士の横の繋がりが希薄になっている。サポーターが媒体となり、学校や学年が異なる子ども同士の繋がりが生まれるよう工夫したい。また、不登校生徒が増えている現実に、一人でも多くの子どもが無理なく学校に行けるよう、なかわく、こすわくの枠を超えて、昼間の時間帯にこすわくを開室し、学校に行かれない生徒に寄り添う

■活動項目

1．川崎市の委託事業「（通称）なかわく」と自主事業の「（通称）こすわく」の学習支援居場所つくり事業を行う（９年目）

なかわく２か所週４日開催

こすわく１か所週２日開催

●学習支援と居場所の機能を備えたオンラインのプログラムの充実

※新型コロナウィルス（COVID-19）収束後、リアル対面での学習支援が復活しても、オンライン学習は並行して行う見込み

（1）オンラインによる学習支援と居場所機能を充実する

（2）学習支援の現場のメンバーによるわくわくエンジン®活用モデルを試行する

（3）中３生を対象に面接対策としてわくわくエンジン®発見プログラムを実施する

（4）なかわくクラブを創設。富士通様にもご協力頂き、子どもたちに体験、経験の機会を設け、学業とは異なる思考力や発想力を培う

2）川崎市寺子屋事業 ＜事業展開図 ④居場所づくり＞

■２２年度のテーマ

子どもたちの「やってみたい」を応援する

■２２年度の目標

・学習教室では、子どもたちそれぞれのわくわくエンジン®を発動させた活動をサポートする

・体験活動では、「○○をやってみたい子集まれ！」として、主体的に行動するという意識づけを図る

■活動項目

1. 川崎市教育委員会より、寺子屋事業の委託を受け、中原区内にある川崎市立今井小学校において 7 年目となる事業の実施。学習教室と体験活動の二つが主な事業
2. 学習教室は、子どもを対象に年間 30 回(新型コロナウイルスの感染状況によっては変更の可能性あり）、水曜日の放課後に実施。子どもたちの放課後の居場所の提供や異学年交流、地域の大人や保護者を中心とする寺子屋先生による学習支援
3. 体験活動は、親子を対象に年間 6 回、土曜日に実施。普段学校の授業では体験しないような学びの提供

④人材育成を目的とした企業、団体等への助言、研修事業

＜事業展開図③まちづくり＞　22 年度は富士通モデルとする

■２２年度のテーマ

企業とともに進む、「人づくりから始まるサスティナブルな社会」へ

■２２年度の目標

１．企業アプローチ５つのステップ推進し、企業の ESG 活動の“S”を強化

■活動項目

１．企業アプローチ５つのステップ推進

企業の ESG 活動としての本格的な（経営者との）協業モデルの展開

STEP1　わくわくエンジン概念理解、企業研修

STEP2　わくわくエンジン理解チームづくり、わくナビ研修

STEP3　学校など地域で実施する

STEP4　子どもを職場体験などで受け入れる、子どもたちを応援する

STEP5　地域で EXPO する

例）富士通川崎大戸地区のモデルづくり

●キーパーソン 21 との協働を通じての企業のブランド作りとは

―CSR としての地域貢献

―活動を通しての社員の成長

―ESG 活動としてのサスティナブルブランドの確立

⑤教育に関わる情報収集、調査研究及び発信事業 **＜事業展開図⑦戦略＞**

■２２年度のテーマ

定性的データに加えて定量化データで効果を測定する。わくわくを定量化することが得意の事業者と連携して、社会の課題へのソリューションとしてアピールする。

■２２年度の目標
社会に共感と理解とインパクトを与えられる調査研究と発信を行う
■活動項目
●効果測定方法の検討
事業領域で抱える課題を調査研究、効果測定を行う。結果について関係各所に発信、提言する機会を探る

⑥その他目的達成のために必要な事業

１）会員力最大化＜事業展開図⑪エンゲージメント＞

■２２年度のテーマ
・新規会員、既存会員とも、会員との対話を重視し、一人ひとりの主体的な活動を共創する。
・会員継続率 90%以上、新規入会 100 名を目指して！

■２２年度の目標
・新規会員、既存会員のアクティブ会員が増加する。（目標 700 名）
・21 年度末会員数 383 名×0.9 継続率+100 名＝22 年度末会員数約 440 名を目指す。

■活動項目
・新規会員、既存会員がキーパーソン 21 での活動に迷わずに、具体的アクションを起こしやすい環境を整備し、きっかけとなる機会を提供する
・学び・交流・行動のきっかけの場として、キーパーソン 21 の日の毎月定期開催する。
・22 年度より、プログラム実施に第三の大人参加数をカウントし、年間のべ 700 名（21 年度実績 540 名？）の参加を目指す。
・オンライン説明会の定期開催（月 1 回ペース）
・会員コンシェルジュによる入会初期フォローの継続
・わくナビ・講師・エバンジェリスト等、会員が活躍できる場をつくる

（２）営利活動に係るその他の事業

①寄贈品、グッズなどの物品販売

特に活動計画なし

②著作、出版物の制作・販売

特に活動計画なし

③会員のサークル活動支援事業

特に活動計画なし

【管理部門】

1）財政基盤を構築する＜事業展開図⑥広報⑦戦略⑩経理⑪エンゲージメント＞

■２２年度のテーマ

マンスリーサポーター制度の実装

■２２年度の目標

マンスリーサポーター100 名獲得

■活動項目　※については、広報領域と協働して進める

【エンゲージメント（寄付）】

・マンスリーサポーター制度のリリース
・募集用ランディングページ（LP）を作成※
・こすわく事業への企業寄付・個人寄付の募集

【戦略（ファンド資金調達）】

・企業/財団等からの問い合わせ応対/申請案件の担当アサインまでのフォロー
・各種企業/財団等/自治体への助成金申請
・既存の寄付受領企業/団体への報告およびコミュニケーション

2）組織改革・基盤強化＜事業展開図　⑥⑦⑧⑨⑩⑪総務/人事/経理＞

■２２年度のテーマ

対話し、共創造を生み出すイノベーティブな組織をめざす

■２２年度の目標

事業/管理/広報/戦略のチーム化により、コミュニケーションの密度を上げて、施策実行スピードを上げる。

■活動項目

【ガバナンス】

・事業と管理を中心にした、理事/事務局のチームコミュニケーション体制の確立
・規定やルールの文書化を促進し、業務/手続きの実行スピードをあげる

【人事・労務】

・各領域ニーズから人の募集と円滑な引き継ぎのサポート
・人に関わる規程の継続整備と早期の雇用/業務委託契約締結、契約対象者拡大
・役割期待確認の期初・中間・期末実施をルーチン化できる仕組みの整備
・予算立案・業務配分・面談・契約・評価・報酬の仕組みの改良検討

【経理・財務】

・2022 年度予算の期初振り分け実行（決算処理負担軽減、月次管理レベル向上、事業区分別や個別プロジェクトの予算管理等を目指す）
・月次の予実管理の継続実施とレベル向上および、四半期に一度の理事会報告
・地域チームにおける会計の管理の強化（現金管理レベル向上、新規創設時の基準作り）

【総務】
・認定・条例指定の継続に向けた手順の明文化およびスケジュールの確認
・グッド・ガバナンス認証活用法の検討・実行、中間モニタリング対応
・各自の事務局業務の標準化・マニュアル化と複数担当体制の確立

【事業計画管理】
・22 年度の事業展開図の体制に基づき、四半期に一度、事業、管理、広報/プログラム開発/戦略の単位で理事会に活動報告を行う
・中期事業計画との整合性を見直し、次期中期事業計画の策定を検討する

【情報管理】
・紙文書の整理と保管ルールの改定および、その管理体制を強化し、管理の継続する
・電子文書保存ルールに則った Dropbox 内文書の保存と整理と保管ルールの改定および、その管理体制を強化
・メールアドレス、メーリングリストおよび各種コミュニケーションツールのアカウント管理、権限および、利用方法/ルールの明文化、その管理体制を強化
・個人情報保護基本規定を見直し、法令順守の継続的確認
【リスクマネジメント】
・新たな事業活動や継続的な活動におけるリスクを半期に一度洗い出し、必要な改善施策を実施する
【エンゲージメント】
・こすわく事業への寄付確保と寄付者とのコミュニケーション強化
・継続寄付いただいている企業・グループ・個人などへの活動報告を検討する。
・川崎市の助成金
・こすわく（生きづらさのある環境の子に対する支援）事業への企業寄付・個人寄付を募集する。

3）戦略を立案する＜事業展開図⑪戦略＞

■22 年度のテーマ
豊かで新しい社会の基礎となる、人間力の土台をつくる、イノベーティブでサスティナブルな社会創造を目指す NPO として広く認知されるよう戦略を立てる
■２２年度の目標
・各事業のロジックモデル計画立案と実行トレースを確実に行う。
■活動項目
・事業領域毎に 21 年度後半に検討したロジックモデルを完成させる。
・事業領域毎の 22 年度の活動計画を 3 か月ごとにモニタリングする。
・中期事業計画と、コロナ禍などの時代の変化に影響をうけた 22 年度の活動の整合性を確認する。
・次期中期事業計画の策定を開始する。

以上